

SDGs  
コミュニケーション  
ブック 2021



## トップメッセージ



リコージャパン株式会社  
代表取締役 社長執行役員 CEO

坂主 智弘

## どうすれば選ばれ続ける企業になれるか？ その答えはSDGsの中にあります。

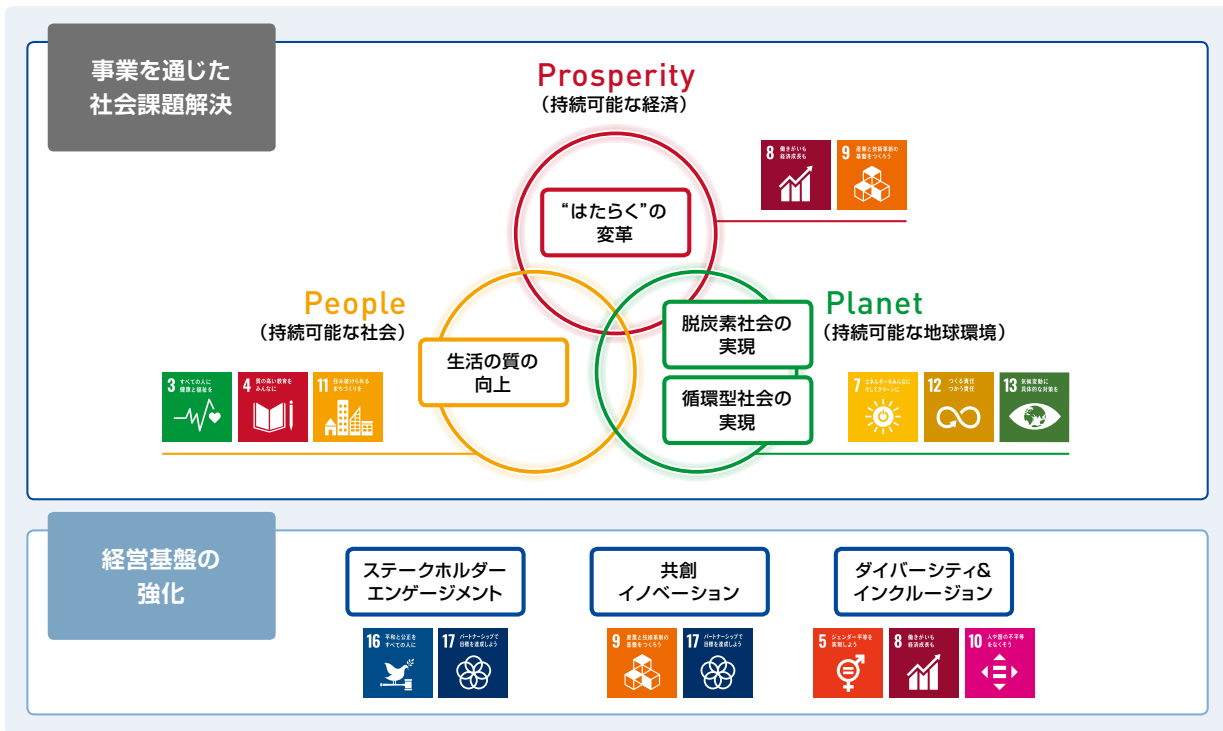
SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連に加盟する193ヶ国の合意のもと採択された世界共通の目標です。SDGsが目指す「持続可能な社会」を実現するためには、行政をはじめ、企業、教育機関、NPO/NGOなどの各種団体、地域社会、そして各個人に至るまで、すべての人々がそれぞれの立場から取り組んでいかなければなりません。

私たちリコージャパンでは、経営の中心に「SDGs」を据えて取り組みを進めています。このコミュニケーションブックを通じて、私たちがどのようにSDGsに取り組んでいるかを知っていただき、皆様とともに2030年のゴールに向けて、活動の輪を広げていきたいと願っています。



# マテリアリティ(重要課題)とSDGs

リコーグループでは目指すべき社会の実現に向け、「事業を通じた社会課題解決」とそれを支える「経営基盤の強化」の各領域でESG（環境・社会・ガバナンス）目標を設定し、加えて「社会貢献」でも取り組みを進めています。



## ◆リコー日本のESG目標

|              | マテリアリティ   | ESG指標   | 2021年度目標                            |
|--------------|---|---|-------------------------------------|
| 事業を通じた社会課題解決 | “はたらく”の变革   | 顧客調査トップスコア率*1   | 30%                                 |
|              |   | 顧客への価値提供拡充度<br>・スクラムパッケージの導入顧客比率<br>・スクラムパッケージ導入による時間創出効果 | 15%<br>6,480万時間/年                   |
|              |   | リコー日本独自のプロフェッショナル認定制度平均プロレベル                              | 前年比105%                             |
|              | 生活の質の向上   | 生活基盤向上貢献人数*2  | 200万人                               |
| 脱炭素社会の実現     | ＜自社の脱炭素の取り組み＞<br>・CO <sub>2</sub> 排出削減率 (CO <sub>2</sub> 排出量)<br>＜お客様の脱炭素支援＞<br>・主要複合機導入とマングローブ植林によるCO <sub>2</sub> 削減量<br>・環境ソリューション提供によるCO <sub>2</sub> 削減量 |   | 2015年度比<br>▲25.7%<br>(排出量 23,500 t) |
|              |   | 循環型社会の実現  | ★*3                                 |
| 経営基盤の強化      | ステークホルダーエンゲージメント  | 販売店の評価トップスコア率   | 30%                                 |
|              |   | 経済産業省DX認定取得   | 認定取得                                |
|              | 共創イノベーション   | ★*3   | ★                                   |
|              | ダイバーシティ&インクルージョン  | エンゲージメントスコア   | 対象スコア 36.5                          |
|              |   | 女性管理職比率   | 2025年度：7.5%以上                       |

\*1 トップスコア率：最も高い評価の選択率

\*2 ヘルスケア事業、社会インフラ事業の対象サービスで貢献する人数

\*3 リコーグループとして目標設定

# リコー日本のSDGsアクション

リコー日本はSDGsを社内に浸透させるとともに、社外にも広める活動を展開してきました。ステークホルダーの皆様とともに、SDGsの達成に向けて歩みを進めていきます。



## CSR報告書勉強会 -①

CSR報告書勉強会を通じて、全国の社員に企業を取り巻く社会の変化や、自社の取り組みを伝えました。2年で延べ1万名以上が学び、お客様も同様に取り組まれていることを知ることで、営業のアプローチの仕方が変わりました。

## SDGs強化月間 -④

リコー日本では、全社員がSDGsと業務との関係を意識して、SDGsへの貢献を実践する強化月間を実施しています。2018年10月にスタートし、2020年11月は、部門ごとに設定したテーマを1ヶ月実践。全国すべての部門が実施し、優れた取り組みはインタビュー動画として社内に共有しました。

## SDGsキーパーソン制度 -⑤

お客様とともにSDGsに貢献していくため、全国に約410名(2021年6月現在)のSDGsキーパーソンを設置。社内においては、社員一人ひとりがSDGsを自分ごととして取り組めるような啓発活動を実施。お客様や各地域の課題を理解し、どのような価値提供ができるのかを考え、提案する役割も担っています。

# リコー日本のSDGsアクション



**SDGsをテーマにした就活セミナーへの登壇**  
 SDGsに積極的な企業を選ぶ学生が増え、就活セミナーに参加する機会が増えています。2020年度は他の企業とトークセッションにも登壇し、リコー日本の活動を紹介しました。

2020年 .....> 2021年 .....

## 6 SDGsと経営の同軸化をスタート



省エネ性能で  
CO2を削減!



731社の  
No.1に輝く!



## 7 リコーが日経SDGs経営大賞で「大賞」を受賞

## 8 SDGs動画公開



YouTubeで  
公開中

リコーの取り組みを  
12講座で学習!

## 9 SDGs講座を全員受講



## 10 リコー日本のESG目標設定



経営指標として  
取り組みを強化!



### SDGsと経営の同軸化 -6-

SDGsと経営の同軸化とは、お客様に製品・サービスを提供することが、社会課題解決につながるということです。2020年2月からは主要複合機の販売台数に応じて、東南アジアでマングローブ植林を開始し、お客様とともにSDGsに貢献しています。

### SDGs動画公開 -8-

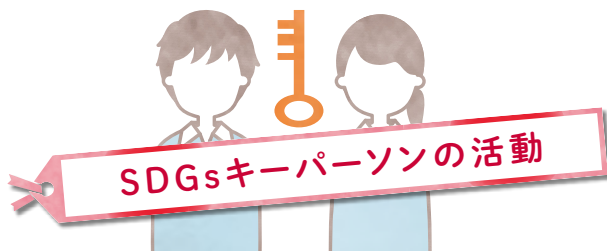
SDGsの取り組みを簡潔にわかりやすく伝えるために、これまでの活動をまとめた動画を制作しました。セミナーやサイネージ等で利用されています。

- リコー日本のSDGs篇
- SDGsキーパーソン篇 (山形支社)

### スキマ時間で受けられる講座 -9-

全社員がESG/SDGsを正しく理解できるように、1講座約10分のレクチャーを動画コンテンツで提供しています。文字通りのスキマ時間で受講できるように作られており、確認テストの実施で知識の定着を図っています。2021年6月のSDGs強化月間に先駆けて、リコー日本の全社員が全体概要篇を受講しました。





リコー日本の全国48支社すべてと各部門に約410名(2021年6月現在)の「SDGsキーパーソン」が活動しています。SDGsキーパーソンは、勉強会やワークショップの企画、お客様への提案など、各自のアイデアでSDGsを社内外に広げるための活動を展開しています。

お客様向け 大阪／企業の社員に向けたSDGsセミナー



お客様からの依頼を受けて、企業などでセミナー講師として登壇する機会が増えています。SDGsで解決すべき社会課題、企業がSDGsに取り組む理由、そしてリコー日本の取り組みを紹介しています。ともにSDGsの達成に取り組む企業や団体が増えていくことを目指します。

SDGsは実は身近な取り組みがいっぱい！お客様にも広めています。



大阪支社  
事業戦略部 CISグループ  
清水 扶美子

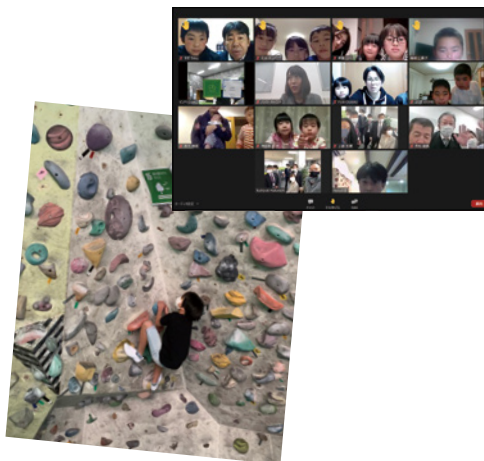
次世代向け 岡山／特技を活かして楽しく学ぶ

自由な発想を認め合える場があり、やりがいを感じながら楽しく仕事をしています。



岡山支社  
岡山第二営業部 MAグループ  
神田 恭行

岡山支社は9名のSDGsキーパーソンが毎週SDGsに関する自由なアイデアを出し合っています。そこで出たチャレンジしたいことをカタチにしたのが、ボルダリングが得意な社員が考えた「ボルダリングでSDGsを学ぶ授業」や家族で楽しめるSDGsオンラインカードゲーム大会などです。工夫を凝らして取り組んでいます。



社内向け 青森／ひとつと多い貼り紙～方言バージョン

「ひとつと多い貼り紙」は、それぞれのゴールについて楽しく理解を促すツールとして2018年から活用されています。青森支社ではSDGs推進の社内啓発の一環として、青森方言バージョンの新しい標語を社員から募集し、事業所内に貼り出しています。この取り組みが弘前市の広報誌に掲載されるなど、メディアからも注目されました。さらに、他の地域のSDGsキーパーソンにも広がり、大阪弁バージョンも誕生しました。



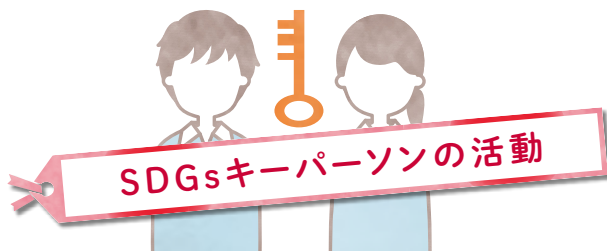
「その“ふたっこ”が、♡愛♡さなる」  
(訳) その(ペットボトルの)キャップが、♡愛♡に変わる。

「ながなげでまれば、ただのゴミっこだぴょん」  
(訳) あなたが捨ててしまったら、それはただのゴミになってしまうでしょう。



青森支社  
事業企画推進グループ  
坂本 建光

青森方言バージョンの貼り紙をお客様にも配布して喜ばれています。



## お客様向け 広島／お客様とともに取り組む活動へ

広島支社ではセールスとカスタマーエンジニアがリコーの環境負荷を抑えた複合機の導入により、東南アジアでマングローブ植林をしている様子を報告する活動に力を入れています。この活動を通じて、さらにお客様のSDGsへの取り組みについての簡単なアンケートを実施し、共に取り組めることが無いかな課題を把握してお役立ちにつなげています。



広島支社  
井上 恭子

お客様とともに  
課題解決に向けた7の  
パートナーを  
目指します。

リコーは事業を通じて、SDGsに取り組んでおります

|            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 持続可能な経済    | 持続可能な社会    | 持続可能な環境    |
| SDGsへの取り組み | SDGsへの取り組み | SDGsへの取り組み |
| 「わたがし」の産廃  | 生活の質の向上    | 脱炭素社会の実現   |
| SDGsへの取り組み | SDGsへの取り組み | SDGsへの取り組み |
| 働き方改革      | SDGsへの取り組み | SDGsへの取り組み |

私たちがいっしょにSDGsへの貢献を考えてみませんか？  
SDGs 17のゴール

是非、裏面のアンケートにご協力ください



## 次世代向け 福井／職場体験で、次世代へ伝える

福井県坂井市では、市が推進しているSDGsの取り組みの一環で企画された「中学生の職場体験会」として、坂井市立丸岡南中学校の2年生22名の生徒の皆さんが福井支社に来社。SDGsキーパーソンによる講義や、「誰一人撮り（取り）残さない」360度撮影で、その場にいるような臨場感を体感できるカメラ「RICOH THETA」や、コミュニケーションの活性化に役立つ「インタラクティブ ホワイトボード」などのリコー製品を体験しました。

後日お礼の手紙もいただき、  
嬉し涙が出ました。



福井支社  
事業管理グループ  
金田 美央

## 社内向け 東京／新たな視点でライフスタイルに

これまで、社内で自分たちのMy SDGs宣言を個人ロッカーに貼ることはありましたが、もっと自分のライフスタイルにも取り入れて自分ごとにしていけないか?と考えた結果が、「私のWork, LikeをLifeに」を写真でレイアウトする新しいMy SDGs宣言でした。

社内のサイネージにその人のLikeを写真で紹介されるとコミュニケーションのきっかけにもなり、オフィス見学のお客様の目にも触れて話題になっています。

私のWork, Like×Life×SDGs 名前: 岡村 優里 部署: ワークプレイス営業部

Work 働く場の空間デザインを通して  
誰もが働き甲斐のあるオフィス作りに貢献します

Like 緑の空間を育む

Life 緑の空間を育む

私のWork, Like×Life×SDGs 名前: 嵯峨 健太郎 部署: 製造第二営業部

Work 1人でも多くのお客様とSDGsについて  
話をする事で、お客様と一緒にSDGs  
取り組みの輪を広げていきたい

Like 年末から始めたキャンプ

Life 守っていくべき自然環境について  
その変化を意識する

私のSDGs宣言



首都圏MA事業部  
流通・サービス営業部  
高橋 摩衣

周りの人の宣言を見ると  
マネしたくなり、  
ジブンゴトを増やす  
きっかけになりました。



リコーは1936年の創業以来、常にお客様の視点に立ち、企業使命として技術革新を行ってきました。長年かけて磨いてきた安心・快適・便利をかなえる技術力で新たな価値を生み出し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

## 固体型色素増感太陽電池 環境発電技術(エネルギーハーベスティング)

期待が高まるIoT社会に向けて、周辺環境に存在する光や熱、振動などから発電する環境発電(エネルギーハーベスティング)、充電を必要としない自立型電源が求められています。リコーは複合機の開発で培った有機感光体の技術を応用し、工場や倉庫などの低照度の室内光で発電する固体型色素増感太陽電池を開発しました。

色素増感太陽電池は、室内光の微弱な光において良好な発電性能を示す次世代型太陽電池として注目されています。新製品は、最大出力を従来製品より約20%向上させたほか、マイナス30℃までの低温環境下でも対応可能としました。これにより、照明機能の付いた冷凍用の倉庫やショーケース内のセンシングをはじめとする多種多様な環境で使用することができます。

### ◆組み込み製品例



固体型色素増感太陽電池を搭載した「RICOH EH 環境センサー-D101」は、温度・湿度・照度・気圧といった環境情報を取得できる環境センサーデバイスです。小型で電気工事や配線が不要なため、工場、倉庫、オフィスや店舗などさまざまな場所に設置することが可能です。



屋内の明かりで高い発電力を発揮するリコーの固体型色素増感太陽電池とビフレストック株式会社が選定した高性能のリチウムイオンキャパシタを搭載し、1日1時間程度のパソコン操作でマウスを利用する際は充電不要<sup>※1,※2,※3</sup>で利用できます。

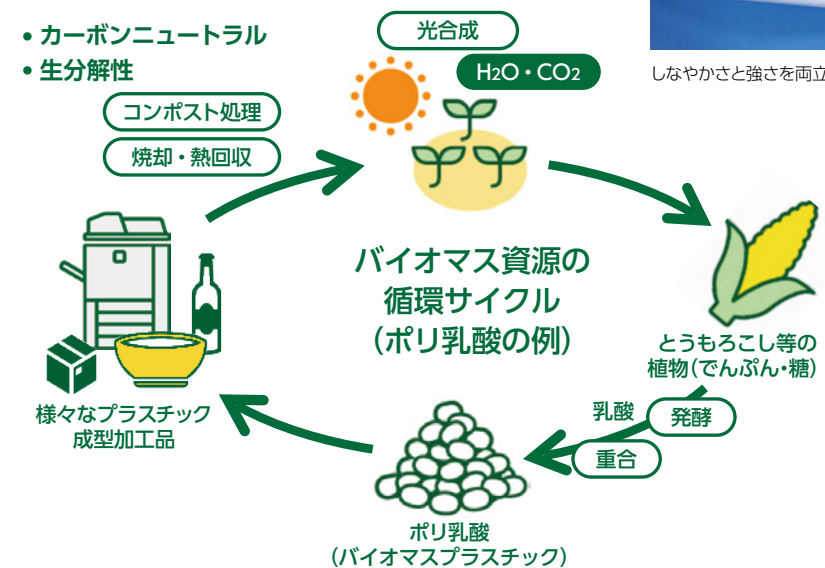
※1 パソコンを使用中に、マウス操作を5%程度行う場合  
 ※2 照度600lxで折り畳まずに充電を行う場合  
 ※3 自然放電等を考慮しない弊社計算値であり、保証値ではありません。

## 植物由来の新素材「PLAiR」

リコーは植物由来のポリ乳酸(PLA)を独自技術で発泡させることで新素材「PLAiR」を開発しました。焼却しても大気中の二酸化炭素を増加させず(カーボンニュートラル)、また、土の中など一定の環境下で水と二酸化炭素に分解する(コンポストャブル性)という特性を持っています。緩衝・梱包材料から商品トレイまで幅広く対応することが可能なため、石油由来プラスチックの代替素材として早期の実用化が期待されています。



しなやかさと強さを両立した発泡PLAシート







## こども成長アルバム そだちえ

リコーが提供するオンライン写真販売サービス「こども成長アルバム そだちえ」は、先生が撮影した写真を手軽で安全に保護者へ販売することができ、保育、教育に従事する方々の業務負担を軽減します。保護者が購入した写真の収益の一部をNPO・フローレンスに寄付することで、病児保育、障がい児保育、ひとり親支援など、主に働く親子を取り巻く社会問題の解決を支援しています。

2020年度は27組のひとり親家庭のお子さんに1ヶ月の病児保育利用相当の支援をすることができました。



障がい児保育は、障がい児を持つご家庭の「はたらく」支援につながる

## その人らしさを大切にする介護ソリューション

介護福祉の現場では人手不足が深刻化しており、デジタル技術の活用による介護従事者の負担軽減や業務の効率化、被介護者へのケアや安全確保が重要な社会課題となっています。

「リコーけあマルシェ」は介護福祉施設のご利用者それぞれに最適なセンサーやカメラなどのデバイス、システムを選択し、その情報から離床・排せつ・睡眠などの状況や生活リズムを把握。ご利用者の生活に合わせた「その人らしさ」を大切にする統合見守りシステムです。介護スタッフ業務の生産性を改善するとともに、利用者の自立支援・重度化防止・QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上の実現を支援します。





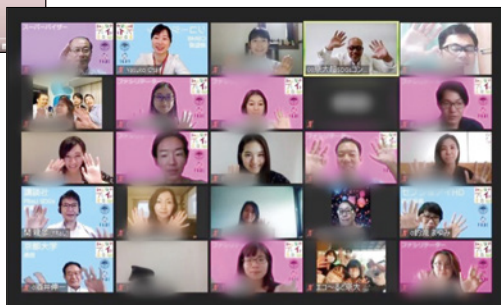
SDGsの目標達成にはパートナーシップが欠かせません。リコージャパンは、社員とその家族、お客様、ビジネスパートナー、地域住民の方々など多様なステークホルダーと連携し、お互いの強みを活かしながら、新たな価値の創造に挑戦しています。

## 持続可能なプラスチックの活用を議論

リコーは2019年より京都大学と企業で構成される超SDGsコンソーシアムに参画しています。2020年7～8月は、全国の中学生からシニアまで幅広い参加者約200名が22のグループに分かれて、オンラインで事前学習し、討論テーマごとに議論しました。リコーグループはパネラーや運営などに東京・静岡・大阪から参加しました。



参加企業が歌に合わせたダンスで盛り上げる「マイボトルダンス」動画に京都支社の社員も出演



グループで議論から発表までの1ヶ月間に、考察を重ねてアイデアを出し合う

## 産官学連携で多摩地区を活性化

東京都の多摩地区にある多摩大学と製造業7社、首都圏産業活性化協会、リコー、リコージャパンで多摩地域の活性化を目指し、環境問題をテーマに新たな事業創造に取り組みました。2020年11月から4ヶ月間20回以上にわたって議論を重ね、システム×デザイン思考を活用して、社会人と学生の混成チームで事業創造に取り組みました。多摩大学で開催した最終ピッチコンテストでは「騒音対策」「フードロス」などのテーマで発表を行い、多くの反響がありました。



「Eco Innovation forum Ideathon」の様子

## フードドライブでパートナーシップ

宮城支社では、毎月月末の1週間を「フードバンクWeek」とし、自宅に余っている食品を持ち寄って、NPO法人ふうどばんく東北AGAINに寄付しており、この活動はグループ会社やOB、お客様にも広がっています。2021年5月からは、自治体がスーパーに設置した「フードBOX」に集まった食品の回収・運搬作業の一部を宮城支社が担っています。



社内で集められた食品は「フードBOX」の分なども加えてNPOに寄付





## 梱包材の利活用で連携

岩手支社では、リコー製品を梱包していたリサイクル前のダンボールを、こども園などの工作用などに再利用してもらっています。矢巾町と連携して実施している、機器の梱包用ダンボールの利活用や、県内の産官学に対するSDGs普及活動が評価され、令和3年度 温暖化防止いわて県民会議「できることからECOアクション！」会長特別賞（意識啓発部門）を受賞しました。



「できることからECOアクション！」会長特別賞（意識啓発部門）受賞



梱包用ダンボールが工作に活用されている

## 若者向け学習会を企画

山形支社は、山形県からの委託を受け、山形大学と連携し、県内高等学校の生徒、大学の学生、教員に向けた「若者向けSDGs等環境学習会」を行っています。

山形大学など地元大学教授の協力を得て、「SDGs(環境分野)」「地球温暖化」「気候変動適応」のテーマに応じた環境学習会を開催しています。各学校では生徒や学生がSDGsの視点から環境問題やその解決策など講義を受け、またカードゲームを通して企業のSDGsの取り組みや解決手法について熱心に学んでいます。



地元大学教授と連携し、企画をSDGsキーパーソンが行った

## 地域との連携協定を拡大

リコーグループが自治体や教育機関と締結している地域との連携協定は42件（2021年6月末現在）にのぼります。秋田県立大学は「21世紀を担う次代の人材育成」と「開かれた大学として、秋田県の持続的発展に貢献」を理念として、独自の教育プログラム「成長のためのメソッド」を推進し、「グローバル」に活躍できる人材を育成しています。佐賀市では、市の特性や地域資源を活かした自立・分散型の社会を形成することを目指し、再生可能エネルギーの普及、電力の地産地消などの環境施策に取り組んでいます。佐賀市、リコー、リコージャパンの三者は、2020年7月の連携協定により、リコーグループが持つ技術力や環境対応へのノウハウを活用して、地域活性化を目指します。



秋田県立大学との協定式



佐賀市との協定式



お問い合わせ先

**リコージャパン株式会社**

経営企画本部

コーポレートコミュニケーション部

〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2 芝公園ファーストビル

E-mail : zjc\_rjsdgs@jp.ricoh.com

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/>

その他、記載の会社名および製品名は、それぞれ各社の商号、商標または登録商標です。

## リコーはお客様満足度No.1

J.D. パワー 2020年  
カラー複合機顧客満足度No.1<スモールオフィス市場>  
カラーレーザープリンター顧客満足度3年連続No.1  
ITソリューションプロバイダー顧客満足度6年連続No.1  
<独立系/ユーザー系/事務機器系Sier>

J.D. パワー調査の詳細は [jdpower-japan.com](http://jdpower-japan.com) をご参照ください。



### ●表紙イラスト

リコージャパンはパラリンアートのプラチナパートナーとして障がい者アートを応援しています。

作品テーマ：「かけあがるSDGs」

## サステナビリティレポート2021



私たちの活動詳細をWebサイトでご紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.ricoh.co.jp/sales/about/sustainability/report/>

